第3編

第8章

養護教諭特別別科



第１節　沿革

熊本大学養護教諭特別別科は、看護師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けている者、あるいは保健師助産師看護師法第21条に定める看護師国家試験の受験資格を有する者、あるいは入学試験を受けようとする年度の前年末までに看護師国家試験の受験資格を取得する見込みの者を入学資格者とし、１年間で、教職に関連する科目や養護教諭・学校保健に関連する科目などについて専門的に学び、養護教諭１種免許状を取得させ、より優れた資質を持った養護教諭を養成することを目的としている[1]。

この熊本大学養護教諭特別別科が発足したのは、1975（昭和50）年４月１日である。定員は現在同様40名であった。そして、翌年の1976（昭和51）年には、専任教員２名が認められるようになった。2011（平成23）年４月の入学生が第37回別科生にあたり、本誌が発行される頃には、本科の歴史は37年目を迎えることになる。

熊本大学養護教諭特別別科の前身は、1963（昭和38）年４月に定員30名で発足した養護教員養成課程である。これは、看護婦免許（現在の看護師免許）を有する者を入学資格者として、１年間で養護教諭の１級免許状（現在の１種免許状）を取得させる課程であった。この課程は、1975（昭和50）年３月に廃止されることになるが、より資質に優れた養護教諭を養成することが社会的にも必要であることから、養護教諭特別別科が同年４月に発足することになった[2]。このような経緯を踏まえると、養護教諭特別別科の歴史は1963年にまで遡り、49年を数えることになる。

現在、養護教諭特別別科を設置している大学は、九州地区では唯一、この熊本大学だけである。また全国的にみてもその数は非常に少ない。本学を含めても、北海道教育大学函館校・山形大学・新潟大学・金沢大学・岡山大学の国立大学法人の６大学だけであり、熊本大学養護教諭特別別科は、優れた養護教諭養成を行う上で重要な役割を担う教育機関となっている。

第２節　養護教諭特別別科の近況

2011（平成23）年に37年目を迎える熊本大学養護教諭特別別科生は、発足当時、現在の熊本市中央区黒髪２丁目にある教育学部棟を学び舎としていたようである。その数年後、その教育学部棟から、細い道路を１本東側へと渡った黒髪５丁目にある教育学部東教室（旧名称は教育学部東教場）に移転している[3]。

この教育学部東教室は1968（昭和43）年に建てられたものである。そのため2009（平成21）年10月から、校舎の耐震補強のための改修工事が行われ、2010（平成22）年４月からは、改修された教育学部東教室が学び舎となった。校舎の内装等に変化はあったが、教育学部東教室の所在地は現在も同じままであり、これまでの30数年間にわたる多くの別科修了生から在学生に至るまで、「東教室」と呼ばれる校舎を学び舎としている。

第３節　近年の特別別科入学生の特徴

ここ10年間の別科学生の入学者の学習歴の推移については表１及び図１に示す通りである。

近年の10年間の入学者の学習歴を見ると、４年制看護系大学を卒業した者の入学者の割合が増加傾向にあることが特徴として挙げられる。これは、看護師養成が４年大学で行われるようになってきたことに起因しているものと思われる。

看護を専門的に学んできたことを共通点としながら、さまざまな学習歴などを持つ学生が特別別科に集い、互いに刺激を受け合いながら学んでいる。

特別別科の学生の最も強い結びつきは養護教諭志望という、共通の目標を持っていることであろう。この目標に向かって、１年の間、仲間とともに苦楽をともにし、養護教諭を目指し真剣に学びあう姿勢は、1963（昭和38）年の養護教員養成課程発足時からも変わることのないものである。

表１　近年（2000年～2009年）の別科入学者の学習歴

年度	４大卒	３年看護	２年看護	短大	高＋専攻	記入なし	入学人数
2000	2 （5.0%）	20 （50.0%）	0 （0.0%）	18 （45.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	40
2001	2 （5.4%）	26 （70.3%）	1 （2.7%）	7 （18.9%）	0 （0.0%）	1 （2.7%）	37
2002	6 （15.4%）	24 （61.5%）	0 （0.0%）	7 （17.9%）	1 （2.6%）	1 （2.6%）	39
2003	4 （9.5%）	16 （38.1%）	0 （0.0%）	20 （47.6%）	1 （2.4%）	1 （2.4%）	42
2004	10 （22.7%）	14 （31.8%）	0 （0.0%）	19 （43.2%）	1 （2.3%）	0 （0.0%）	44
2005	7 （24.1%）	12 （41.4%）	1 （3.5%）	9 （31.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	29
2006	11 （26.8%）	15 （36.6%）	0 （0.0%）	10 （24.4%）	0 （0.0%）	5 （12.2%）	41
2007	14 （35.0%）	14 （35.0%）	2 （5.0%）	4 （10.0%）	1 （2.5%）	5 （12.5%）	40
2008	14 （35.9%）	21 （53.8%）	1 （2.6%）	2 （5.1%）	1 （2.6%）	0 （0.0%）	39
2009	19 （50.0%）	16 （42.1%）	1 （2.6%）	2 （5.3%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	38

三年看護…３年制の看護師養成機関（専門学校、独立行政法人系病院付属看護専門学校等）
二年看護…２年制の看護師養成機関（専門学校等）
高＋専攻…高等学校（看護科）＋専攻科修了

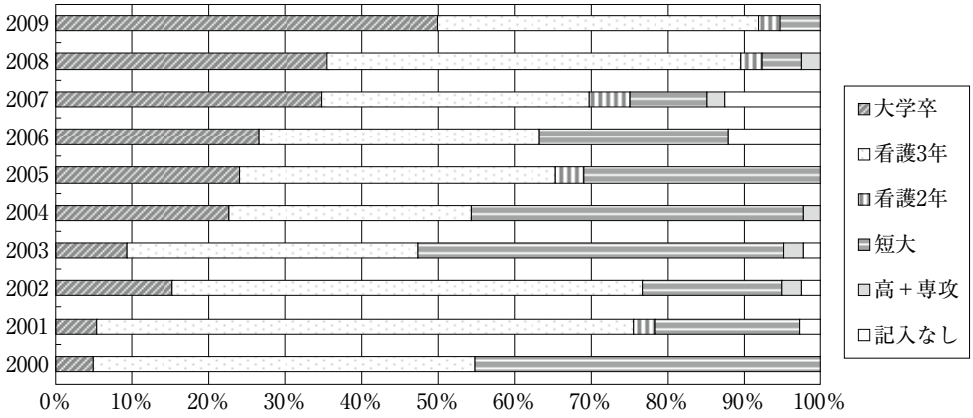


図１　近年（2000年～2009年）の別科入学者の学習歴の推移

第４節　特別別科担当教員について

37年間の歴史の中で、養護教諭特別別科を専任で担当する教員も、退職や転出により大きく変わってきている。現在の養護教諭特別別科担当教員は、山梨八重子（2008年９月着任）と入谷仁士（2009年４月着任）の２名である（旧教員については表２参照）。

山梨は、「養護教諭職務論」「ヘルスカウンセリング」等についての授業を、入谷は「学校保健」「保健科教育」等についての授業を主に担当している。また、これまで多くの修了生が、１年間という限られた時間であるが、「子どもたちの心身の健康課題に関すること」「保健室の機能に関すること」「保健学習・保健指導に関すること」「養護教諭の力量に関すること」など、さまざまなテーマを自ら決め、養護教諭としての資質を高めるために取り組んできた「養護教諭実践研究（卒業研究）」についての指導は、現在、山梨・入谷の両教員があたっている。

表２　特別別科教員（教官）一覧

氏　名	在籍期間	転出先等
丸橋　寿郎	1975年４月～1976年３月	
中川　昭十	1976年４月～1978年４月	1978年５月より公立病院へ
山城　和夫	1978年６月～1980年７月	
前田　浅子	1979年４月～1988年３月	定年退職
池井　　聰	1980年10月～1982年３月	1982年４月より熊本大学医学部へ転出
柴山　謙二	1984年３月～2002年３月	2002年４月より熊本大学教育学部心理学科へ転出
松本　敬子	1988年４月～1999年３月	定年退職
斉藤ふくみ	2000年９月～2008年３月	2008年３月より茨城大学教育学部養護教諭養成課程へ転出
市村　國夫	2004年２月～2009年３月	定年退職

熊本大学30年史編集委員会編『熊本大学三十年史』第一法規1980年ｐ507～805
熊本大学教育学部同窓会会報、1976－2009

参考文献

1　国立大学法人熊本大学「平成23年度熊本大学養護教諭特別別科学生募集要項」、(2010年) p 1
2　熊本大学30年史編集委員会編『熊本大学三十年史』(第一法規、1980年) p 507～508
3　前掲『熊本大学三十年史』p 1068